

まちだ防災カレッジ



まちだ防災カレッジ

届える・広める・行動できる 災害から〇〇を守る防災リーダー

通信

まちだ防災
カレッジ通信

第1号

自主防災組織とは

まちだ防災カレッジ通信では、自主防災組織活動の活性化、新規加入世帯の増加を目的として、市民の皆さまを対象に情報発信を行います。

「こんな特集を組んでほしい」「〇〇について知りたい」などの意見がございましたら、お気軽に下記のお問合せ先までお申し付けください。これまでの記事は、町田市ホームページからもご覧いただけます。

[町田市トップ](#)>>[暮らし](#)>>[防犯・防災](#)>>[防災](#)>>[防災カレッジ](#)

次回の防災カレッジ通信もお楽しみください。



自主防災組織とは
自助・共助の大切さ
自主防災組織の皆さまへお願い
自主防災組織ナゼやる・ナニやる
自主防災組織日々の活動例
WEBコンテンツ
コラム301 窓口の風

2022年5月27日発行
編集・発行：町田市役所防災課地域防災担当
お問合せ先
電話：042-724-2107
メール

自主防災組織とは

大規模な地震などの災害が発生した場合には、火災が同時に多発し、消火活動や救助活動の要請が殺到、その上道路などの損壊・交通渋滞・停電や断水などにより消防機関の活動は著しく制限されることとなります。このような、住民自身による初期消火活動や被災者の救出救護・避難誘導など、自主的な防災活動が必要となった時に活動する地域組織が自主防災組織です。

また平時には、最も住民に身近な防災組織として、その地区ならではの防災啓発活動を行っています。

自助・共助の大切さ

大規模災害時は市民一人一人(自助)、自主防災組などの地域組織(共助)及び自治体・公共機関(公助)をはじめとする防災関係機関

がそれぞれの役割を果たし、協力・連携して災害に対応していくことが極めて重要です。

自主防災組織は、地域において「自助」と「共助」を推進する役割を担っています。

約6,400人以上の死者・行方不明者を出した阪神・淡路大震災では、地震によって倒壊した建物から救出され、生き延びることができた人の約9割が家族や近所の住民などによって救出されており、消防、警察及び自衛隊によって救出された人は約2.5%であったという調査結果があります。



共助

公助

このことから、これらの割合は

自助：共助：公助

7：2：1 といわれています。

町田市から自主防災組織の皆さまへお願い

初動活動期(発災〜2・3日)は施設管理者や指定職員が中心となつて避難施設の開設を行います。

応急活動期(2・3日後〜1・2週間)及び復旧活動期(〜1ヶ月程度)は、各対策部職員(2〜3人)が派遣されてきます。

しかし、自治体は生活再建に向けた復旧、復興に注力する必要があり、公助には限界があり、住民の参画が不可欠であります。そこで市民の皆さまには、発災時には、自分の身は自分で守る「自助」と地域のことは地域で守る「共助」の体制をとっていただきたいと考えています。また、平時から家庭では、備蓄、家具転倒防止などにご協力をお願いいたします。

合わせて地域では、防災訓練の開催、地域で顔の見える関係の構築へのご協力をお願いいたします。

発災時に住民に最も近い存在は自主防災組織なのです。



ここまでお読みいただいた皆さまの中には、ただでさえ大変な発災時に、なぜ自分たちが自主防災組織の活動をしなければならぬのか疑問を感じた方もいらっしゃるかもしれません。住民が自主防災組織に加入するメリットは何なのか分からない方も多いと思います。そこで、次に2016年に起こった熊本地震から、皆さまの活動のヒントとなるような自主防災組織の活躍を紹介します。

熊本地震の被害

同一地域において震度7の地震がわずか28時間の間に2度発生しました。

全壊約8,300棟、住宅被害が16万棟、最大約45万戸断水、約48万戸停電となり、交通網も道路、鉄道、空路が一時不通となりました。

住民一人一人の特技を活かす

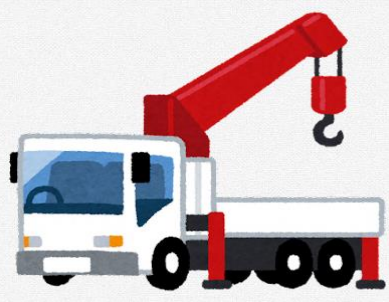
大工が瓦が落ちた家にブルーシートを被せた



被害状況をカメラで記録し情報発信支援物資が届いた



全壊家屋からユニットバスをクレーンで取り出し、公民館にお風呂を設置



看護師による避難所での衛生管理



日頃から声をかけ合う

高齢者や障がい者の避難を支援



避難した大学生に声のかけ方を教えた。その後大学生は仲間を誘って水運びなどで活躍



熊本地震の際に自主防災組織が活躍した例を6つ挙げました。看護師による避難所での衛生管理や有志による建物解体や炊き出しなど、住民のスキルを活かして、役割を担うことで様々な問題が解決されました。地域が持っている得意分野を把握できて、日頃から協力関係を築けるのが、自治会、自主防災組織の大きな利点のひとつです。

日頃のパトロールや、通学路での挨拶運動などで、お互いに声をかけ合うことで、どこに助けが必要かがわかります。いざという時に「助けになる人」「助けが必要な人」をあらかじめ知っておくことの大切さが分かります。

大地震が起きた際は、自主防災組織に入っている人も、そうでない人も皆等しく被災者になります。会員自身も被災していながら、地域のために活動するには、相当のストレスと体力的にも限界があります。日頃から顔の見える関係を作り、いざという時にお互いを助け合える、一緒に困難に立ち向かう仲間を作ることが出来るのが、自主防災組織活動を行う意義のひとつだと思います。

(参考)熊本県ホームページ
自主防災活動事例集
(熊本地震対応編)

自主防災組織 日々の活動例

自主防災組織が行う日々の活動の代表例は防災訓練です。防災訓練とは、災害の発生に備えて事前に訓練をすることで、地域の危険箇所を把握し、災害が発生した時に住民が適切な行動をとり、被害を軽減できるように取り組めます。防災訓練の効果的な実施について、年間で予定されている地域行事の開始前や終了後に防災訓練を実施すると、参加者が集まりやすく、日程や会場調整の負担を軽減することが出来ます。また、地域行事の内容に防災訓練の要素を取入れることも効果的です。クイズ作成やスタンプラリー形式にするなど、ゲーム性を取入れることで参加者を増やした地域もあります。訓練を実施する際は、町田市防災課及び、町田消防署まで実施の申請をしてください。

WEBコンテンツ

消火器の使い方や、避難の方法、ペットと暮らす方に必要な情報などを動画にまとめたものがございます。左は、東京消防庁ホームページの電子学習室へのリンクです。ここに載せた4つの動画の他にも、各ご家庭で出来る住まいの安全チェックや、救命救急の動画も掲載されています。右は、町田市保健所生活衛生課が作成した、ペットと防災に関する動画です。ペットを飼われているご家庭も多いと思いますが、ペットの災害対策は、何をしたらいいのか不安な方もいらっしゃると思います。ペットも大切な家族の一員です。この動画でペットの災害対策について考えてみましょう。

ぜひ日々の自主防災活動にWEBコンテンツをお役立てください。

東京消防庁ホームページの電子学習室へのリンクです。キュータと一緒に防災について学びましょう。

やってみよう！防災訓練
～避難のしかた～



やってみよう！防災訓練
～消火器の使い方～



地震に備える
～地震その時10のポイント～



災害に強い地域づくり
～自助と共助～



ペットの災害対策セミナー

町田市公式YouTubeへのリンクです。数々の震災や水害現場での対応事例をわかりやすく紹介します。ペットと家族が災害を乗り越えるための準備と心得について一緒に考えてみましょう。

町田市保健所生活衛生課
042-722-6727



コラム～301窓口の風～

先日、福島県檜葉町に行ってきました。天神岬の南側には、かつて綺麗な砂浜が広がっており、海水浴場と、その周辺は住宅街が広がっていました。今は、その面影は全くなく、高い堤防と、何も無い土地が延々と続いています。海水浴場に流れる木戸川は、国内でも有数の鮭捕獲数を誇る漁場で鮭遡上の時期には多くの観光客が訪れたそうですが、震災の影響で鮭の遡上数が減少し、漁獲量も大きく減少したそうです。木戸川漁業協同組合では現在、鮭の孵化事業に専念しているそうです。震災の影響が今も残ることを実感しました。

